

追記あり【活動レポート】12/15 学生企画「アジア・アフリカ・国際協力・ボランティア報告会」を開催しました



本報告会のテーマは、インターンシップや留学を通じて「アジア・アフリカ・ボランティア・国際協力」について気付いたことや感じたことを普通とは少し異なる視点から本音で話す、というものであった。一般的な留学報告会は、「留学・ボランティアや国際協力は良いもの」という結論で終わってしまうが、今回の報告会は国際協力に対する批判的な意見や、途上国で暮らすということにフォーカスした話が出ていたので、内容の濃い会になったのではないと思う。

報告会を始める前に、西原さんが参加者のみなさんのバックグラウンドに関する質問を幾つかしてくださったが、軽いアンケートなどで特にどんなことを詳しく聞きたいと思っているのかを聞くことができれば良かった。日本語ボランティアやヤギの話など、内容が偏ってしまったように感じたので、前もって参加者の希望を聞いておけばよりその場に即した話ができたと感じた。

また、西原さんがおっしゃっていて同感した意見として、発表者と質問者の一対一のやり取りになってしまった部分があり、話を多面的に発展させることができなかつた点が残念だった。リハーサルの際に話しすぎてしまったのを反省し、話を振られるまでしゃべらないようにしていたらあまり話す機会がなくなってしまった。その点を省みて、他の報告者に対する質問にも自分の意見を言えば良かったと感じた。

改善点や反省点は幾つかあるが、全体を通して発表者としても楽しむことができた充実した報告会になったと思う。このような会はこれからも毎年開催してもらいたい。

(国際社会学部アフリカ地域 3年 北村美月)

《準備段階での自分の変化》

当日を迎えるまでにコーディネーターと発表者で2回の会議を行いました。その会議の中でのやり取りが私にとっては新鮮なことが多かったように思います。私がカンボジアでの経験をシェアした時に、「植物の話が面白い」「インターンとして行くまでに色々あったところが興味深い」など、自分ではあまり気に留めてこなかったところにコメントをもらったので、こういう所にも関心を持ってくれるんだ！という発見がありました。また、こんな話で大丈夫かな・・・という不安も最初はあったのですが、他の発表者の話を聞いていて、似たようなエピソードもあれば全く違うエピソードもたくさん出てきて、私も自分が経験してきたことをそのまま話そう、と思えました。

《当日》

当日は、始まる前に西原さんが、何年生が集まっているのかを聞いてくださって良かったと思いました。1・2年生ばかりだったので、海外に行く選択肢を探していたり、海外でどういう経験ができるのかを知りたかったりする方が多いのではないかと予想し、それを発表に活かせるかはわかりませんが、会のあいだはそんなことを考えながら過ごせました。会の最後には、参加者の中で話したいことがある方が発表者に話しかけに行く、となっていました。面識がないため話しかけることをためらっている方もいたので、発表者側からも積極的な声かけをするなど工夫ができれば良かったと思いました。

(国際社会学部東南アジア地域(カンボジア)3年 石山麻美)

* * *

私は今回の学生企画において聞き手として参加させていただきました。リハーサル等の段階から既に今回の話し手4人のお話を聞いていたのですがその時点から次から次へと面白い話題が飛び出し、当日に何を話してもらおうかととても悩みました。当日までにきちんと流れを計画していたため当日はスムーズに会場設営をし、今回の企画を進めていけたと思います。4人の発表もさることながら私はパネルディスカッションや座談会でも4人からとても興味深い話を聞くことができましたと思います。今回のテーマはアジア・アフリカ・国際協力・ボランティアとなっていました。これらのテーマに沿いながら各々が体験してきた日常について話していたことがとても印象深かったです。また参加者の学生からも座談会の際に自身の疑問点や意見が挙がり学生同士が積極的に意見交流ができる場ができていることをうれしく思いました。

(言語文化学部ドイツ語専攻3年 亘詩織)

日時: 2017年01月10日